

2/17 埼玉県委託事業 県内消費者団体地区別研修会
ヤングケアラー・ケアラー支援について学びました



ふれあいキューブ(春日部市)会場



講師 宮崎成悟さん(左)、酒井齊さん

ふれあいキューブ多目的ホールCおよびZoomによるオンラインで開催し、会場17人、オンライン30人計47人が参加しました。ヤングケアラー協会の宮崎成悟さんに「ヤングケアラー当事者の人生から考える支援のあり方」、介護者支援の会草加の酒井齊さんに「ケアラー支援はなぜ必要か」についてご講演いただきました。

1/21 さよなら原発埼玉県民集会
オンラインで開催しました



講師 樋口英明さん

埼玉県原爆被害者協議会、埼玉県平和運動センター、原水爆禁止埼玉県協議会、埼玉県生活協同組合連合会が共催して、「私が原発を止めた理由～本当は誰にでもわかる原発裁判～」と題して、関西電力大飯原発3・4号機の運転差止を命じる判決を下した元裁判官の樋口英明さんに講演いただきました。講演では、原発の耐震性の低さ、事故が起きた時の被害の大きさ、高度な技術があれば安全と科学的事実を重視しない原発の現状について、真実を伝え続けることが必要と話されました。

埼玉県原爆被害者協議会、埼玉県平和運動センター、原水爆禁止埼玉県協議会、埼玉県生活協同組合連合会が共催して、「私が原発を止めた理由～本当は誰にでもわかる原発裁判～」と題して、関西電力大飯原発3・4号機の運転差止を命じる判決を下した元裁判官の樋口英明さんに講演いただきました。講演では、原発の耐震性の低さ、事故が起きた時の被害の大きさ、高度な技術があれば安全と科学的事実を重視しない原発の現状について、真実を伝え続けることが必要と話されました。

2/1 組合員学習会
三芳町社会福祉協議会の
取り組みについて講演いただきました



会場ようす



グループ交流しました

埼玉会館会議室およびZoomによるオンラインにて、4生協30人が参加して開催しました。地域のさまざまな団体と連携しながら、社会問題を解決し続けられている三芳町社会福祉協議会の取り組みについて学び、さらにグループ交流を通じて、地域での活動や連携について考えました。

2/6 埼玉県食品衛生安全局と
消費者団体の懇談会
埼玉県食品衛生監視指導計画など
について懇談しました



埼玉消団連代表幹事によるあいさつ



埼玉会館にて、埼玉県食品衛生監視指導計画、鳥インフルエンザおよび豚熱などの状況について、環境保全型農業の推進についての3項目をテーマに開催しました。埼玉県から6人、消費者団体からは埼玉消団連幹事団体、生協などから10人が参加して、意見交換しました。

2/7 埼玉県との定期協議
2023年度埼玉県予算編成および
行政執行に関する要望への
回答について意見交換しました



埼玉県消費生活課 若松孝治課長から回答をいただきました



埼玉県生協連にて開催、埼玉県からは生協連からの要望への回答、生協連からは50周年記念事業、第52回通常総会の開催概要、コープみらいからは、フードバンクや社会福祉協議会へのお米支援の取り組み、県立高校とフードドライブの連携事例、埼玉県伊ツモ防災講座への受講について報告し、意見を交換しました。

SAITAMA

2023 春号

No.85
(2023年4月発行)

県内生協の活動を写真で伝える情報誌

写真ニュース



埼玉県マスコット「コバトン」

Top News

1/26

埼玉県生協連創立50周年記念祝賀会
埼玉県知事や関係する皆様にご出席いただきました



埼玉県地域婦人会連合会会長柿沼トミ子さんに乾杯の音頭をおとりいただきました

埼玉県生活協同組合連合会創立50周年記念祝賀会が、ロイヤルパインズホテル浦和・スカイバンケットホールにおいて開催され、ご来賓として、埼玉県知事大野元裕様、埼玉県議会議長中屋敷慎一様、日本生協連代表理事会長土屋敏夫様、埼玉県農業協同組合中央会代表理事会長坂本富雄様、埼玉県地域婦人会連合会会長柿沼トミ子様をはじめ、友誼団体の代表の皆様、県内生協関係者など47人にご出席いただき、開催しました。



大野元裕知事
ごあいさつ

埼玉県議会議長
中屋敷慎一様ごあいさつ



生協連や会員生協の50年の歴史を
スライドでご覧いただきました

3/15 埼玉県委託事業 インターネット適正広告推進事業
「ネット通販から学ぼう 契約と広告の基礎知識」を
テーマに高校生約400人に講座を開催



クイズや実際の検索で、実践的に学習しました
(県立狭山経済高校)

成年を控えた1~2年生を対象に、高校生向け啓発事業として講座を実施。消費生活相談員の鎌田伊津子さんを講師に、クイズやスマートフォンを使っての実際の検索や特定商取引法に基づく表示の注意点を確認しました。成年年齢引き下げに伴い、若者の商品トラブルが多い事例などについても説明し、啓発しました。

この事業は、NPO法人 埼玉消費者被害をなくす会が、埼玉県より委託を受けて実施しています。



協同の力で未来をつむぐ
協同組合 SDGs



生活協同組合コープみらい

土砂崩落の影響が続く秩父市中津川地内でのドローン定期配送プロジェクトに参加



1月26日に実施した記者発表会の様子

コープみらいは、秩父市、株式会社ゼンリン、KDDI株式会社、KDDIスマートドローン株式会社、株式会社エアロネクスト、株式会社ちちぶ観光機構、ウエルシア薬局株式会社とともに実施する、土砂崩落の影響が続く秩父市中津川地内でのドローンによる物資の定期配送「&(アンド)プロジェクト」に参加しました。この取り組みは、2022年9月に土砂崩落が発生し、物流が寸断された同地域住民への冬季期間の生活支援を目的として連携・実施されました。



生活協同組合パルシステム埼玉

家にいながら社会貢献 商品配達時のフードドライブを実施



みなさんからお寄せいただいた食品の一部

パルシステム埼玉では、1月30日(月)から2月10日(金)まで、宅配利用者へ家庭で眠っている食品の提供を呼びかけ、商品の配達時に受け取るフードドライブを実施しました。お預かりした食品はNPO法人フードバンク埼玉を通して、生活困窮者等へ提供されます。年2回実施しており、昨年9月の呼びかけの際には833.8kgの食品をお預かりしました。配達時に参加できる社会貢献活動として、生活困窮者支援と食品ロス削減に取り組んでいます。

「もったいない」から「ありがとう」へ

生活クラブ生活協同組合

「『誰にも言えずに苦しんできた』福島甲状腺がん患者の現実」講演会を開催



2月14日、フリージャーナリストでNPO法人OurPlanet-TVの白石(しらいし)草(ははじめ)氏による講演会を行いました(実参加8人、オンライン参加27人)。原発事故から12年が経過し、復興に向かって一方、20歳前後の福島の若者たちが甲状腺がんと診断されており、がんを診断されたことを友人や親戚にすら伝えられず、自分を責める若者とその家族について語られました。今なお被害に苦しむ人に対して、私たちに何ができるかを考える機会となりました。今年度も生活クラブでは甲状腺検査活動を実施します。



講師のフリージャーナリスト白石草さん

- 今日のおはなし
- ・甲状腺がん裁判
 - ・甲状腺検査で何が起きているのか
 - ・チェルノブイリと違うのか
 - ・過酷な甲状腺の治療実態
 - ・声をあげられない患者たち
 - ・原告のみなさんから



医療生協さいたま生活協同組合

地域とともに30年 ありがとう健康・つながる笑顔



11月27日、SDGsトレジャーハントウォーク&健康フェスタ

2022年、医療生協さいたまは合併30周年を迎えました。30周年事業では「WFPウォーク・ザ・ワールドin埼玉」として、「地域とつながる・世界がつながるあなたのまちウォーク」、「埼玉まるごとヘルスチャレンジ」WFPチャリティーウォークコース、「SDGsトレジャーハントウォーク&健康フェスタ(11/27)」を開催しました。この企画の目標は2つ。1つ目は「届けよう子どもたちへ、栄養と希望」国連WFPが行う途上国の子どもの学校給食支援へ100万円の募金。2つ目は「守ろう地球! 私たちは歩いて地球1周」を掲げて取り組みました。3つの企画の参加者は3,086人、地球4.4周を歩き、国連WFPに1,237,000円を寄付することができました。

10月8日、～風そよぐ荒川河川敷～ 吹上コスモス畑ウォーキング



こくみん共済 coop<全労済>

第49回「小学生作品コンクール」を実施しました



埼玉県知事賞「かにのパーティー」(3年生)



3年ぶりに開催された表彰式

こくみん共済 coop <全労済>では、社会貢献活動の一環として子どもたちの豊かな心の成長を願い、1973年から小学生を対象に作文・版画のコンクールを開催し、今年で49回目を迎えました。今回のコンクールには埼玉県内の小学生から作文・版画の両部門あわせて537点の応募をいただき、埼玉県知事賞、こくみん共済 coop 埼玉推進部長賞をはじめとした各賞を選定しました。また、コロナ禍で中止していた表彰式を2月25日、3年ぶりに入賞者を集めて開催し、笑顔あふれる子ども達と充実した時間を過ごすことができました。



埼玉大学生生活協同組合

新春お年玉企画を行いました



景品の電子マネーのポイントは好評でした



大学生協では2022年秋から生協アプリ・電子マネーを始めました。これらの普及・組合員への利用還元・店舗利用促進を目的に「お年玉抽選会」を行いました。期間中に生協店舗(食品部)の300円以上のレシート持参で1回抽選ができる企画で、景品は生協店舗全店で使用できる電子マネーのポイントでした。まだまだアプリ・電子マネーの普及が進んでいない中でしたが、この企画は好評でアプリ・電子マネーの認知度向上に繋がりました。